

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
 会長：稲葉 徹
 幹事：大嶽 達郎
 クラブ広報委員長：鈴木 健司
 例会日：毎週木曜日 PM12:30~
 会場：ヒルトン名古屋



ロータリー：
変化をもたらす

2017~2018年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY: MAKING A
DIFFERENCE)

2017~2018年度
名古屋瑞穂ロータリー
クラブ会長のテーマ
ロータリーの品格を高めよう!

事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1812回例会

~R財団月間~
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2017年11月30日(木) 曇り 第20回

司会：鳥山政明会場委員
 斉唱：「日も風も星も」
 ゲスト：米山学友会会長 林 瑠さん
 ビジター：名古屋昭和RC 島田純子さん

会長挨拶

稲葉徹会長

皆さんこんにちは。本日は酉の日、特に「三の酉」の日です。11月に三回も酉の日があるのはめずらしいとされています。そこで今日は酉の日に開催される「酉の市」についてお話しします。



11月の酉の日に、「酉の市」が立ちます。東京、埼玉、神奈川など(関東地方が多いようです。)各地の鷲(大鳥、鳳)神社の境内で毎年開かれるこの市は、開運出世、商売繁盛を願う人で賑わいます。酉の市は「酉の市」とか「おとりさま」ともよばれ、年の暮れの近づいたことを知らせる関東の風物詩ともいわれています。

酉の市がはじまったのは江戸時代であり、葛西花又村(いまの足立区花畑)鷲明神の酉の市がさかんでした。もともとは農民が鷲明神に感謝をささげる収穫祭であったと伝えられています。この市で、農具や古着、農産物など、いかにも農村らしい品物があきなわれ、このうち、農具である熊手が運を「かきこむ」というところから客商売の人のびとに人気が出て、やがて、酉の市ならではの縁起物でかざった熊手となりました。

酉の市には、縁起物の熊手を売る露天が神社の周りにずらりと立ち並び、七福神、宝船、松竹梅、千両箱、お多福などをきれいに飾りつけた大小の熊手が所狭しと並べられます。熊手は、福やお客を「かき寄せる」「取り込む」縁起物として人気です。縁起物がつけられた熊手は、もともと値段があつてないようなもの、客が売り手と交渉し、商談が成立すれば、「いよーパンパン」と威勢のよいかけ声とともに手締めが行われます。ちなみに、値切ったうえで、その値切り分をご祝儀としておいておく、それが粋とされているようです。かくゆう私も東京で学生生活を送っていたとき、浅草の鷲神社の酉の市で、熊手を買ってこの儀式をやっていたいただきました。そのお陰かどうか翌年の公認会計士試験に合格できました。合格できたのは、あの時の熊手のご利益だと今でも思っています。

最後に、「三の酉のある年は火事が多い」という言い伝えがあります。この時期は北西の風が吹き、空気が乾燥して、江戸の名物の火事がおきやすい季節であったからであります。酉の市で売られている切山椒(山椒の粉をまぜた餅菓子)を食べると、風邪をひかないとされています。初冬のこの時期風邪をひかないように健康にはくれぐれも気をつけましょう。

出席報告

広瀬弘幸出席副委員長

会員65名 出席45名 (出席計算人数49名)

出席率 78.9% 11月9日は補填により100%

ニコボックス

広瀬弘幸ニコボックス副委員長

・先週のゴルフ部会でのホールインワン記念ご参加頂きありがとうございます。皆様に喜んで頂いたようで良かったです。 **鳥山 政明さん**

- ・先日のボジョレー例会では、皆様大変ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。以後、飲み方には気をつけます。どうもすいませんでした。
近藤 茂弘さん
- ・妻の誕生日に素敵な花をいただき、ありがとうございました。本人も喜んでおりました。
松田 浩孝さん
- ・卓話に第2760地区米山学友会会長の林さんをお迎えして。宜しくお願いします。
近藤 雄亮さん
- ・延平RC来名の際は皆様に御協力いただきありがとうございました。
湯澤 勇生さん
- ・鈴木圓三さん、岩本さん、田中政雄さん、市岡さん、先日は楽しい時間をありがとうございました。
関谷 俊征さん
- ・今年も残り1ヶ月と1日です。12月は何かと忙しいので体調には気をつけて下さい。
泉 憲一さん
- ・昨日は業界の行事があり野球部忘年会を欠席しました。すみません。
田中 宏さん
- ・昨日は野球部の忘年会楽しかったです。皆様ありがとうございました。
内田 久利さん
- ・昨日野球部試合&納会参加しました。皆様お疲れさまでした。相変わらず打撃不振です。
湯澤 信雄さん
- ・昨日は野球の皆様お疲れ様でした。
鈴木 淑久さん
- ・忘年会シーズン、皆さん頑張りましょう。酒井さん、先日はありがとうございました。
森 裕之さん

表彰

名古屋瑞穂RCが、米山寄付優秀クラブ(会員一人あたり上位5クラブ)として表彰されました。また、牧野智繁さんが米山功労者表彰されました。



委嘱状授与

稲葉徹会長より、近藤雄亮さん、掘慎治さんに「2017年度米山記念奨学生選考面接官」の委嘱状が送られました。



幹事報告

大嶽達郎幹事

- ・本日指名委員会の第1部を13:40からヒルトン名古屋4F「梅の間」にて、第2部を18:00から桃花林にて行います。
- ・次週12月7日(木)に16:30から第6回理事会を事務局にて行います。
- ・同日18:00からクリスマス家族会を名古屋観光ホテル3F「那古の間・西」にて行います。
- ・牧野智繁さんの会員名簿用のシールがメールBOXに入ってます。
- ・先日のボジョレーニューポ例会において、福岡西RCからお菓子「博多通りもん」を頂きました。

ロータリー米山記念奨学事業との出会い

皆様こんにちは。1995年—1997年度ロータリー米山奨学生、現在国際ロータリー第2760地区米山学友会会長を務める林と申します。これより25分程お時間を頂き、ロータリー米山記念奨学事業の紹介、簡単な自己紹介、今までの仕事内容、そしてロータリー米山記念奨学事業との出会い、2760地区米山学友会活動状況の報告、東日本大震災支援、日中関係等についてお話をさせて頂きます。

私の出身は、中国の北京です。1993年9月に来日し、半年間南山大学において日本語を勉強し、三重大学生物資源学部食品化学研究室に入学しました。修士課程の2年間、ロータリー米山奨学金を頂いた事は大変名誉であり、私の人生にとって大きなターニングポイントになりました。三重大学7名の留学生と一緒に面接に行った時の事や、通知書を頂いた時の感動は今でも鮮明に覚えています。そして、奨学金を頂いたお蔭で無事修士学位を取得する事ができ、ロータリアンの皆様にも心よりお礼申し上げます。

世話クラブの松阪東クラブは、毎年奨学生をうける体制を整えたクラブです。私のカウンセラーである吉田さんは、長年熱心に米山奨学事業を取込み、地区米山委員長も務めた方です。もう一人、私がお世話になった中西さんは、アメリカで修士学位を取った方です。二人とも国際感覚を持っており、多忙にも関わらず私を世話して下さい、2年間お二方のご家族と、とても良い付き合いをしながら、日本の事、米山の事をたくさん教えて頂きました。毎月の例会にも参加し、会員との交流は勿論、クラブ会員主催の松阪市の花火大会に、三重大学出身の奨学生を含む20名の留学生を招いて下さったり、会員の自宅でお茶会や、会員の会社で開催された、ギョーザ食事会にも参加しました。また、大阪名所のお花見や、会員の地元小学校との交流活動に参加したり等、クラブ例会以外の日本社会との触れ合いの機会を与えてくれました。卒業後も夜間例会、土日の国内旅行等に欠かさず誘って下さり、とても仲良くして頂きました。日本人の優しさ、思いやりを肌で感じる事ができ、たくさんの良い思い出ができました。このように、米山奨学事業はお金の支援だけではなく、人生の土台を作る年齢に、所謂世界観の形成に大きく影響され、人を育てるプロセスでもあります。我々は感謝の気持ちを持つようになり、奉仕の精神を育てられ、自分の人生の中で、何らかの形で米山奨学事業、国際交流に貢献しなければならないと思う様になりました。

国際ロータリー第2760地区米山奨学委員会のご指導、ご支援の元、20年前に米山学友会は発足しました。ロータリーとの繋がり、学友同士の絆を深める役割を果たしています。数年前、私は会長就任の学友会総会で、加納バスターガバナーの提案で、「日本一、お手本になるような学友会を目指し、全員一致団結して頑張ります。」という目標を制定しました。日本一になる理由は以下にあります。愛知地区のロータリアンの人数は日本で一番多い事。そして、当地区米山学友会は長い間加納理事と現理事の近藤バスターガバナー、及び米山委員会の下で、積極的に活動しているからです。この地区は、米山奨学事業に積極的に支援してきたロータリアンが多く、中国米山学友会の会長、数人の役員もこの地区の元奨学生でした。

私が会長に就任してから、学友の方に如何に恩返しするかという事に取り組みました。大学院卒業後、大学院で習得した専門分野研究成果を生かし、食品メーカーの研究開発部に、研究開発に従事し、一定の成果を収める事が出来ました。2003年1月から天野エンザイムに転職し、マーケティング本部に所属しました。中国市場を新規開拓し、顧客獲得や業界での人脈作り、会社知名度上げに力を入れ、その後の販売会社設立に繋がりました。また、中国販売会社を設立し、中国ビジネスに関わりながら、積極的に日本国内製薬会社、食品メーカー、アジア諸国、オセアニアに自社製品である医薬品、食品の原料を販売する営業活動も行ってきました。そして、スペシャリティ製品販売のスキルを取得する事ができました。中国での製造会社設立にあたって、営業の仕事しながら、提携先の選別から合併会社、最終的には独資までの買収プロジェクトに参加しました。営業とは違った、厳しいやり取りを含む経営の観点から物事を考える事ができるようになり、貴重な経験もさせて頂きました。2012年に、中国独資製造会社でストライキが発生し、急遽現地会社への対応任務を任せられました。複雑な現状を良く見極め、現地政府の力を借りながら、無事100名の社員が全員仕事復帰する事が出来ました。その後、安定した生産を管理する為、製造会社に副総経理として赴任となりました。企業利益を出す為、経営者としての立場から、生産現場の中国人管理体制の構築、人員削減等を手掛けました。生産コスト削減で、会社経営者として、製造企業の再建成功に導く結果を残しました。13年間、会社の中国ビジネス展開、拡大に貢献し、微力ではありますが架け橋の役割を果たし、自分に与えられた仕事を通して、会社奉仕、社会奉仕を行って来ました。東海日中貿易センターからの依頼を受け、中国投資部会会員会社にて「中国ローカル社員管理の現場から」の講演もさせて頂きました。その後ホシザキ株式会社に声をかけられ転職しました。中国駐在し、北方のビジネス再建に、違うビジネススタイルではありますが、努力して会社に貢献しました。

数年前の未曾有の東日本大震災、津波が発生し、日本経済に大きな損失が生じました。その後福島原発事故の悪影響で、為替の動きも日本輸出産業に大きな打撃を受けることになりました。製造業はリスクを分散する為、海外進出を加速化しています。日本でたくさんの恩恵を受けた私達は、日本人と一緒にこの困難を乗り越え、日本経済の回復に尽くし、仕事で母国と日本の架け橋の役割を果たさなければなりません。米山奨学事業への恩返しは責任であり、使命だと考えています。日本の技術、企業文化は非常に優れています。海外進出にあたり、企業を円滑に運営していくには、外国の体制、ビジネススタイル、異文化及び価値観などの理解は不可欠です。失敗を回避し、ビジネスを成功させる為、米山学友の存在は、国際社会が進むにつれ、益々重要になってきます。学友同士は、ネットワークを使って、情報交換しながら助け合っています。

現在、地区ロータリー米山委員会と一緒に、米山学友会のイベントを計画し、実施しました。また、米山学友役員会は、米山委員会—ガバナー事務所との一体感のある体制を整えました。各クラブの要望に応じて、卓話を実施しています。2630地区と共同で企業見学会を開催し、奨学生に、日本企業との触れ合う機会を与えています。日本の企業文化、優れた技術と物づくりの心を知ってもらうためのイベントです。5年前から毎年WFFに参加し、ボランティア活動で奉仕の精神を育てることが出来ました。また、奨学生、学友のメンタルヘルスケア、奨学生の進学、就職のフォロー、相応の支援活動も積極的にしています。

学友の方は、殆どアジア出身です。現在の日本企業海外進出のお手伝いや、必要人材の紹介、中国進出した地区のロータリアンの要望に応じて、中国学友会と連携を取り、様々なフォローもしています。中国学友会元会長の姫軍さんの様に、外国企業の商標権の為、努めています。2630地区から上海へ進出した日本企業の顧問弁護士は、殆ど中国米山学友の方です。現地化が進むなか、優秀な人材を求める企業が出てきています。それに応じ、支援活動もしています。

東日本大震災復興支援の為、当学友会は義捐金募金を呼びかけ、沢山の学友の方に寄付をして頂きました。その翌年には、引継ぎボランティア団体を通じて、2760地区米山学友会の名義で義捐金を出しました。個人としては、3年前の5月下旬に、会社の同僚と一緒に東日本大震災復興支援のため気仙沼に行き、三日間のボランティア活動に参加しました。三日間の気仙沼では、とても貴重な体験が出来ました。震災地では復興も進み、ライフラインや公共サービス等、元の状態に戻っている部分もありますが、しかしながら訪れた際は、多くの人が仮設住宅に住み、津波で流されたままの車、建直して使う前に震災に遭った水産学校はそのまま廃校となり、震災当時の惨状を生々しく残っていました。復興が進むどころか、震災から時間が止まっているとさえ感じました。(陸前高田は壊滅の様です。)日本でたくさん恩恵を受けた私達は、日本人と共に長期に渡った復興支援の為、微力ながら協力していきたいと思っています。

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となり、国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学する事を目的としています。これまで、米山奨学生事業では、19808名の米山奨学生を支援してこられました。その多くは、中国(33.5%)、韓国(22.3%)、台湾(17.5%)をはじめとするアジアの留学生です。日本と中国は隣接しており、経済的な結びつきはますます強くなる一方で、隣国である日中は、お互いに欠かせない存在であり、日中経済から見ても両国の友好関係はますます重要です。日中関係を壊すのは簡単ですが、修復は難しいです。我々は日中友好の架け橋として、役割を果たすべきと考えています。日本人と中国、一人一人がお互いを理解した上で、健全な日中関係を構築していく事が重要ではないでしょうか。

私のスピーチは以上でお終いですが、最後に、私の留学生生活が無事に終了できた事で、今の成長があります。それは、ロータリー米山奨学金無しには、実現不可能な事でした。ロータリアンとの縁を大切に、身につけたロータリーの奉仕精神を今後の人生の中で活かし、仕事を通じて社会奉仕しながら、日本と母国の架け橋の役割を果たして、国際奉仕に努めます。また、この場にいらっしゃるロータリアンの皆様にも心より深く感謝申し上げますと共に、引き続き、ロータリー米山奨学事業のご支援賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



例会のご案内

- 今週の行事 12月7日(木) クリスマス家族会
場 所：名古屋観光ホテル
時 間：18:00~20:00
- 次週の行事 12月14日(木) 第3回クラブフォーラム(年次総会)
- 次々週行事 12月21日(木) 上期納会
場 所：八勝館
時 間：18:00~20:00